

第5回寄附講義「会社研究」

令和2年6月10日 13時10分

講師 株式会社 JR 大分シティ

代表取締役社長 津高 守 氏

テーマ 大分の街の元気をつくる！

5回目の今回は、JR大分シティの津高守社長が経済学部棟から講義されました。津高社長は2012年6月から3年間取締役大分支社長として大分駅高架化に深く係わり、2018年10月にまた大分に戻って現職に就かれました。大分駅の変貌を知り尽くした方です。



<https://www.jr-oita.jp/recruit/message/>

ご経歴

昭和36年(1961年)生まれ。大阪府堺市出身。昭和60年(1985年)に九州大学大学院工学研究科修了後、日本国有鉄道に入社。昭和62年(1987年)に九州旅客鉄道株式会社に入社。その後、鉄道事業本部新幹線鉄道事業部長、鹿児島・宮崎総合鉄道事業部長、鉄道事業本部施設部長、取締役大分支社長、取締役鉄道事業本部副本部長兼安全推進部長、常務取締役事業開発本部副本部長兼企画部長を経て、平成30年(2018年)に、株JR大分シティ代表取締役社長に就任。現在に至る。

初めに、学生のために大分市のことを簡潔に説明されました。大分市の人口47.7万人は松山市、金沢市、高松市に匹敵すること、製造品出荷額が九州1位で、全国1,718市町村の中でも14番目であること、小売商業販売額が全国に58ある中核市の中で19番目に多いことなど、大分市民でもあまり認識していません。

次いで、1970年の大分市国鉄路線高架促進期成同盟会の設立から2012年の完成にいたる長い歩みを振り返りながら、高架事業がいかに大事業であったかを語りました。

大分駅の北側を中心に整備され、近年は歩行者数や小売販売額の面で衰退傾向をたどっていた大分市の中心部を再活性化したのがJR大分シティを核とする地域の区画整理や道路整備などの面的整備と高架化、駅ビルの建設でした。これを契機に中心部に賑わいが戻り、歩行者数、小売販売額も上向きに転じました。

JR九州グループは社員8,175人、売上高4,326億円の九州屈指の大企業です。1998年度に売上高の91.8%だった鉄道事業のウエイトを2019年度には40.2%まで縮小し、ホテル、不動産、流通など鉄道以外が6割を占める総合的なまちづくり企業グループに生まれ変わりました。JR大分シティも単なる商業ビルではなく、何度訪れても楽しめるアミューズメントパークのような施設として、商店街と連携しながら、まちの元気をつくる役割を担っています。

今年2月下旬からは新型コロナウイルスの影響を受け、一時店舗を閉鎖するなど、売上高、入場者数を減らしています。テナントや商店街と協力しながら一日も早く立ち直ることを期待したいと思います。

JR大分シティは、大分市の顔です。

